



小島友実の あの馬の STORY



グローリーミスト

7月12日・函館競馬場・新馬戦のウイナーズサークル

中竹和也調教師が管理する2歳馬、グローリー(スト)は新種牡馬ワーフォース産駒。7月12日の函館の新馬戦を勝利し、ワーフォース産駒としては初勝利、第一号となりました。

この馬を初めて見た時の印象を中竹調教師は、「新種牡馬の仔なので、馬体に関しては手探りで判断する所もありました」と振り返ります。

「最初に見たのは昨年の9月頃。体型や歩き方がしっかりしていい、丈夫そうだなと思いましたね。馬体はペタペタが濃く出てるのかなという印象でした。ノーザンファーム鶴居牧場に移動してからの育成も、凄く順調に進みましたよ」

今年5月に栗東トレセンへ入厩。デビューの地は函館が選択されました。

「調教の走りから、新潟や小倉のパンパンの野芝のみの馬場は合わないだらうな」と。また、ダートも好みではない印象でした。そこで、少し時計がかかる洋芝は合ひだりついで、距離があるた方が良いタイプなので、函館の芝1800メートルでグローリーとなっていました。デビュー戦のパンツックで落着いていたグローリー(スト)。それにはいとん対策もあったみたいですね。

行きスクリーフグリーンした。その効果があつたのでしょった。他の2歳馬に比べても仕上がりでこぼした」

そして、新馬勝ちを決めたのは先述の通りです。

「ハナに行つた馬が下位たのぐ、その後にこだわったグローリー(スト)が逃げる形に。直線に入つた段階で勝負がついた競馬だったので安心して見ていました。やはり初戦は他馬と比べての仕上がりと完成度の高さが出来ましたね」

2戦目は札幌のマツモト賞で出走しましたが、5着に敗れてしまふ。馬の影響を受けてしまってスタートで立ち遅れて後方から。それでも馬群を割つて伸びて5着。精神的にタフな面を見せてくれた一戦でした」

2戦目のパンツックでも落着いていたグローリー(スト)。普段、トレセンではじんな様子なのじょつか。

「馬房でむじむじも大人しく、牡馬になりつつのも変わらず、可愛らしさが良いつもりですが、凄く可愛らしう馬(笑)。人懐っこく、丁寧なところが上がつて来る事もなつて本当に扱いやすくてあります。調教でも人間の指示を全部聞きます。普段はのんびりしてて、調教で真面目に走ってくれるので成長してほしくですね」

われた紫菊賞に出走。後方からレースを進め、4コーナー手前から仕掛けた3番手グループの外につけた。直線は伸びきれず6着でした。

「今回は野芝ベースの瞬発力が求められる京都の馬場が合わなかつたですね。今後は状態次第ですが、冬になりますと時計がかかる野芝と洋芝のオーバーレースの馬場になればチャンスが出て来ると思いまよし、ダートも合つて脇のドコ脱みてやつつきたいです。父系からスマートナガあるいはわかつてこますので、今後は速い走りにも対応できるよう、母系(母)ハイツオレットはクラッハーブロボの半妹)からのペース

が出てくればよろしくおがね。もちろん現段階での最大目標はクラシックですが、ダートも命めで色々なチャレンジが可能な馬。精神的にタフなのも心強じるので、この馬のポテンシャルを最大限に引き出せねば、しっかりと管理してこきだげですね」

中竹師によると、まだ体に芯が入り切つてない所があるつて、今後は更に成長を促します。語ってきました。愛馬全生涯に亘り、おじダートを命め選択肢が多くなるのは心強いですよ。グローリー(スト)がじんな風に成長するのか。私も注目したいですね」

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。